
HONDA Super Cub

JUN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

老人は、病に倒れていた。

長年家族のために働き、酷使され続けた体を病魔が容赦なく蝕んでいた。

老人は、その体がもう長くは持たない事を知っていた。

自分の生涯に全く悔いはなかった。家族のために捧げた一生。ひたすら働き続けた一生。

人生を振り返った。幸せだったとつくづく思った。

老人には、長年一緒に仕事をしてきた相棒がいた。

小さな店を開いた時に配達用に買ったカブだった。

新車でつやつやと光る緑色のカブが、とても愛らしかった。新しい店の船出が順調に行く事を夫婦に思わせた。

そんな夫婦のささやかな願いを打ち砕くように、店の経営は厳しかった。妻は必死に家計をやりくりし夫を助けたが、食べる物にも困る日々が続いた。

カブは外装こそボロボロになっても、全く故障もせず、わずかなガソリンでよく走る事で主の為に尽くしてきた。

重い荷物をくくりつけ、雨の日も風の強い日も、雪の日ですら共に働いた。

そしてその努力が少しずつ芽を出し、徐々に店が軌道に乗りはじめた。

子供達は結婚し、やがて孫も生まれ、夫婦はようやくささやかな幸せを得る事ができた。

カブが引退する時がやってきた。

店はより多くの荷物を運ぶために、クルマで配達する事になった。

カブは、もう必要でなくなったのだ。

だが老人は、苦しい時を共に乗り越えてきたこのボロボロになったカブを、捨てる事はできなかった。

そして、初めてキレイに掃除をしてやった。

使われなくなってしまうたカブだったが、捨てられる事なくやがて倉庫の奥にひっそりと置かれていた。

開いた時よりほんの少しだけ大きくなった店は、今では息子夫婦が立派に継いでいた。

息子も父に似て働き者だった。

思い残す事は何もなかった。後は、近いうちに訪れるであろう死を受け入れるだけだと思った。

ある日、今年高校生になる孫が見舞いに来てくれた。

今時の若者らしく、内気で引っ込み思案な所があったが、それは優しい性格からきている事を老人は知っていた。

そんな内気な孫が一人で見舞いに来たのは、老人にとって意外な事だった。

じいちゃん、倉庫にある古いカブ、じいちゃんのだよね？

他愛もない話をしたあと、孫がいきなりこう切り出した。

老人は驚いた。カブがまだ倉庫にあったのか。老人が息子に店を譲り、仕事から離れて何年もたっていた。さすがにもう処分されていると思っていた。

ああ、そうだよ。

老人は答えた。

おれ、原付の免許取ったから、おじいちゃんのカブ、乗ってもいいかな？

孫の言葉に、老人はまた驚いた。使われなくなって数年、購入してから何十年も経っている。

それはいいが、もう動かんだろう。

老人は言った。

僕もそう思ったけど、ガソリン入れてみたら、エンジン、かかったんだよ。

まさか！

本当だよ。まだ走るのは無理だけど、エンジンは、かかったんだよ。

エンジンがかかった…。

老人は信じられなかった。とつくに壊れて寿命かと思っていたのに。

まだ、走るようになるにはあちこち直さないといけないけど、おれ、お小遣いあまり無いからさ、バイトしてお金貯めて、本見ながら、自分で直して乗りたいんだ。じいちゃん、いいかな？

老人は、孫の顔を眺めながら、このまま病魔に屈してもいいと思っていた心に、温かいものが広がっていくの感じていた。

孫がカブに乗りたいと言ってくれたのが嬉しかった。そしてあのカブが、また人を乗せて走る事が嬉しかった。

まだまだ負けていけないな。

心の中でそう呟いてから、孫に言った。

カブが直ったら、おじいちゃんにも乗せてくれよ。

孫は一瞬に驚いた後に、

うん！

と顔をほころばせた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3792b/>

HONDA Super Cub

2011年1月6日07時05分発行